三条油小路町絵図より鋳物師釜屋庄三郎方

本能まちづくりニュース

第４４号　平成２０年5月1日発行

本能まちづくり委員会
委員長　西嶋直和

E-mail:　post@honnoh.net
URL　http://www.honnoh.net

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページでご覧ください。

私たちの提案「がんばれ元学区、つくろう新学区」

「京都市まちづくり学生コンペ 2007」において立命館大乾ゼミ本能班が最優秀賞を受賞しました。

(財)京都市景観・まちづくりセンターは、平成 19 年 10 月に設立 10 周年を迎えたことを記念して、学生たちのアイデアによる提案を京都の歴史的都心部(北は御池通、南は五条通、東は河原町通、西は堀川通で囲まれたエリア)のまちづくりに生かすため、「京都市まちづくり学生コンペ 2007」を主催しました。

都市空間の新たな活用方法の提案を求める「都市デザイン計画部門」と、地域の生活を支えるまちづくり活動や仕組みの提案を求める「地域まちづくり部門」に、全国から 86 組(京都市内 56 組、市外 30 組)の応募がありました。審査員は学識経験者、不動産業者、地域のまちづくり委員会の代表者(当委員会の西嶋氏ら)から構成され、平成 19 年 10 月 14 日、学生と審査員との交流を行う「第 1 回合同ワークショップ」が開かれ、参加者は 114 名にも上りました。そして 12 月初め、46 組(京都市内 30 組、市外 16 組)が作品を提出、わが本能まちづくり委員会の若い原動力となっている学生さんのうち、京都府立大学宗田研究室の石井さんが「都市デザイン部門」に、立命館大学乾ゼミ本能班(長江さん・秦さん・森本さん・四ツ井さん)が「地域まちづくり部門」に応募しました。

12 月下旬、第一次審査(両部門 5 組)で本能班の作品が通過、石井さんも善戦しました。そして平成 20 年 1 月 27 日、第 1 次審査通過グループは公開プレゼンテーションに臨み、乾ゼミ本能班は最優秀賞を受賞しました。会場は、京都のまちのよりよい将来像をデータや図面を使って、グループごとに発表する学生たちの熱気で包まれました。若い柔軟な発想力が京都市中心部のまちづくりに新しい風を吹き込む日もそう遠いことではないでしょう。(ゆ)

本能発高倉行～新しいコミュニティ形成を願って～

私たちが活動してきた本能学区は、京都の都心部〝田の字地区〟と呼ばれ、昔から「元学区」単位の自治力が強く、また、職住共存のまちとして都市の活力を維持してきた。しかし、近年、産業の衰退や人口の減少に伴い、職住共存の地域形態が崩れかけてきており、土地にはマンションが次々と建設され、また児童数の減少から小学校が統廃合されたことを機に、元学区に代わり新小学校校区が作られるようになった。そのため、学区に対する意識の薄れや地域住民同士の交流の薄れが問題になってきている。そこで私たちは、新しいコミュニティ形成に向けて、「元学区意識の再形成及び、新学区コミュニティの創出」をコンセプトとし、本能での実体験をもとに提案した。

まず、対象地区を「新学区」として、高倉小学校区に定め、元学区である本能・城巽・明倫・日彰・生祥・立誠・初音の７学区からコミュニティを広げていくというテーマを掲げた。その上で、私たちは今までに行ってきた若年層の巻き込みを図った活動や、高倉校区にまで目を向けた小・中学生対象の企画等での経験から、新学区の中で元学区が時にはライバルとして、時には助け合い、時には面白い企画などを競い楽しみながら、元学区一つ一つが個性を際立たせつつ、元学区意識を持つことが大事であると考えた。そのため、提案では元学区意識をなくすのではなく、「新学区」を意識しながら、元学区も活かしていけるコミュニティ作りを３つ提案した。

１つ目は、子持ち世代をターゲットに、「子供向け」の企画を開催し、広報活動においても若い年代が興味を持つような工夫をすることで、どこにも帰属意識を

持たない新住民を巻き込むという企画である。２つ目は、「元学区」対抗の体育祭。これは、本能の区民体育祭をヒントに「元学区」内の交流促進を図った企画である。そして最後に、「新学区」を意識しながら、元学区の特色を活かし協力し合える企画として考えたのが高倉実行委員会である。これは、似たような形で現在「スマイル 21」という高倉小学校が組織する団体があるが、高倉実行委員会は、各元学区からの代表(誰でも、何人でも良い)で結成され、イベント等を「元学区」発信で開催し、「新学区」がお手伝いという形でサポートをしあうというものである。

以上の３つの提案を「がんばれ元学区、つくろう新学区」というかけ声と共に、新学区を考えながら、元学区を際立たせるきっかけになればと考えた。

京のまちと本能学区の変遷

［　平成 19 年 9 月 14 日、山田町村田茂雄様からお寄せいただきました。　］

慶応４年８月の京都府布令書３により上京 45 下京４１の番組が決まり、明治２年正月、下京の番組の改組があり、41 の番組が 35 の番組となり、その時本能学区は下京 2 番組と呼称されました。27 町にて本能学区と呼ばれました。

明治時代に西洞院川の暗渠(あんきょ)工事があり、第二次世界大戦時において、焼夷弾による類焼を食いとめる為、家屋が密集している市中心部、重要施設(小中学校等)・官公庁・病院・社寺などの周辺の空地作りのため、昭和 19 年７月に第一次強制疎開、8 月の第二次疎開で計 27 ヶ所３万８千坪、昭和 20 年３月の第三次疎開では、140 ヶ所 36 万４千坪と一挙に拡大。この中の空地帯作り、4 ヶ所 20 万２千坪が、今日の堀川通り・御池通り・五条通りと成りました(防火ベルトとして)。第一次～三次までの合計立ち退き家屋数は 2706 戸と記録されています。

第四次疎開は、174 ヶ所 26 万坪 7672 戸と数字が残されていますが、8 月５日から取り壊し始めて 15 日正午の玉音放送で中止されるまでの、実際に空地になった面積や戸数は不明のままです。この時は 3 日間で立ち退けとの命令だったそうです。京都が受けた戦災です。

本能学区に於いても、強制疎開で消えた町内があります。堀川通りに家が建っていて、多くの住民の方がおられましたし、亀屋町に於いても、空也堂ガレージの部分に家が建ちならんでいたとお聞きしております。

現在は町数 24(四坊堀川町を含む)となっております。

昭和 ４年４月　中京区誕生時　人口 158,000 人
昭和 16 年 10 月 1 日現在　人口 167,364 人　世帯数 34,928
平成 ７年 11 月　人口　90,876 人　世帯数 38,771
平成 15 年 11 月　人口　98,708 人　世帯数 48,411
平成 19 年８月１日　人口 102,243 人　世帯数 52,508

本能学区では

昭和 16 年 10 月 1 日現在　人口 6,094 人　世帯数 1,115
平成４年度(本能小学校閉校年度)　人口 2,578 人　世帯数 1,033
平成 19 年８月１日現在　人口 4,589 人(男 2,043 人女 2,546 人)世帯数 2,411

堀川三条を北進する北野行

『京・なかぎょう』より転載

本能学区人口・世帯数も増加の一途、住み良いまち住みたいまち賑わえるまちに確実に発展していると思います。

資料は『本能閉校記念誌』『本能校百年史』、中京区役所・京都市役所本庁情報公開課、
『中京区制 60 周年記念誌　京・なかぎょう』、
『本籍京都市　昭和ひと桁　ふるさとへの想い　世代の証言』(著者林田庄治様　文章引用)

追記：西洞院川は明治 38 年、市電(チンチン電車)の開通にあたって暗渠化されました。京都駅～北野の天神さん間を走り、昭和 36 年７月 31 日廃止されました。
市役所本庁にて、戦争中の町内会別の資料を調べましたら、塩屋町が藍屋町にて記載されており、職員の方に質問、ほかの資料等でわかりました。当時染色業・染料屋さんの多いまちで、そう呼ばれていたのではないかと。四坊堀川町は亀屋町と一緒になり、亀屋堀川町として記載、町内会とされておりました。

山田町　村田　茂雄

村田さんの原稿・写真は本能まちづくり委員会ホームページに掲載しています。ご覧下さい。本能まちづくりニュース・本能まちづくり委員会ホームページへの皆様のご投稿をお待ちしています。

本能の人達が大好きです

2008 年２月 10 日、京都市景観まちづくりセンターにおいて立命館大学産業社会学部乾ゼミ3回生が、地域活動に携わった成果を披露する「2007 年度乾ゼミ丸ごとシンポジウム」が開かれました。

乾ゼミ生は現在6つの地域(京都市5、神戸市1)のまちづくり活動に参加しています。このシンポジウムでのプレゼン

テーションはその活動体験と、調査・データ整理・分析といった論理的作業を通して、地域の新たな課題を探ったり、これからのまちの姿を学生の目から推測、まとめ上げたもの。ゼミ生として活動約1年半の集大成ともいえるこの発表会は、どの班も見応え・聞き応えのあるものでした。

本能まちづくり委員会の若いパワーとなっている「本能班」(前述4人組)もこの日に向け、夜を日に継いで論文を書き上げ、正装でプレゼンテーションに臨みました。

「おいでやす本能まちづくり委員会へ～本能まちづくり委員会とは何か～」というタイトルで、本能学区と本能まちづくり委員会の概要や経緯、委員会メンバーへのヒアリング調査を基にした組織分析など、まちづくり委員自身も深く認識していると思えないような(！)事柄まで論文にまとめてくれました。プレゼンの後の質疑応答では、参加者から本能まちづくり委員会や本能の地域活動への質問も出て、西嶋委員長がそれに答えていました。

この本能学区ではすっかりお馴染みの立命館大乾ゼミ「本能班」ですが、実は乾ゼミのなかでは一番新しい班で、現在の4回生が「第1期生」なのです。先輩のいない状況で、乾先生の下、同じく本能まちづくり委員会に参加している京都府立大宗田研究室の学生さんと連携をとりながら、さまざまなイベントの企画や実行、アンケート調査によるデータ分析を行い、また本能の過去の歴史もひも解きながら地域まちづくり学習を進めています。この論文の中に盛りこまれている、まちの姿や方向性といったことは私たち地域住民にも大変参考になると思います。

いつも地域活動で頑張っている学生さんたち、本当にありがとうございます。これからも本能まちづくり委員会でいい汗を流してくださいね。(ゆ)

本能で学んだこと

私たちが本能学区に通い始めてから早１年半が経ちました。「まだ本能に出会って１年半しか経っていないの？！」と感じるほど、この１年半は楽しくて濃い体験の連続でした。

振り返ってみれば、本能班は１期生という立場から、はじめは地域に入るということに不安や緊張もありましたが、通えば通うほど地域に行くことが楽しみになりました。

こんな場所ではなんですが、告白します！！！！

「私たちは、本能の人たちが大好きです！！！！」

本能の方々は、何もできなかった私たちをいつも暖かく見守ってくださり、たくさんのアドバイスもして下さいました。そして地域の暖かさに加え、染めを通じて京都のすばらしさも教えてくださいました。はじめて参加した公開工房では、普段では見られない職人さんたちの匠の技にただただ感動したことを覚えています。

世代を超えた交流の楽しさや、一致団結してひとつのことに取組む粘り強さやそれによる達成感は、かけがえのないものになりました。

この１年半を通して「本能」というまちは、私たちの第二の故郷になりました。本当にありがとうございました。そしてこれからも宜しくお願いします。

本能 girls 一同

(長江聡美・秦久美子・森本佳容・四ツ井沙織)

高倉小学校「のれん披露の会」

本能まちづくり委員会は昨年 11 月、日本イベント大賞制作賞を受賞し、その副賞賞金でのれんを制作し、高倉小学校・御池中学校・高齢者福祉施設本能に寄贈しました。

2 月 25 日(月)高倉小学校にて、本能まちづくり委員会から寄贈された 15 枚の「古代色のれん」を披露する会がありました。校長先生の挨拶のあと、児童代表からお礼の言葉、そして 15 枚ののれんが一斉に壇上に掲げられ、一枚ずつ古代色の説明が児童によって行われました。昨年 10 月に行われた「のれんを染めようワークショップ」にも参加した児童代表からは「実際体験したら、どの工程も気を抜くと美しく仕上がらないことを感じました。また同じ赤でもたくさんの種類があり、スタンプラリーの時、本能の町並みがきれいでした。毎日使うトイレの入り口につるし、みんなで大切にしていきたいです。本当にありがとうございます。」と西嶋委員長、西村勝嘉さんへお礼の言葉が伝えられました。また、古代色の説明をした児童は「これは土器(かわらけ)色です。素焼きの土器からきた色の名前です。」と 15 枚ののれんについて一生懸命説明していました。壇上に 15 枚ののれんが並んだ時はその美しさに児童から「わーっ」と歓声が上がりました。

子どもたちは、学校生活で毎日こののれんに接し、自然に「伝統」を感じ取っていくことでしょう。「子どもたち、くれぐれもお手拭代わりに使わないように！」(あ)

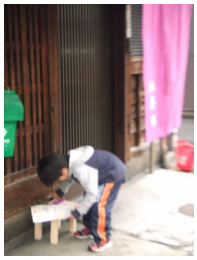
のれんをご寄贈いただいて

「この漢字は，ぼたん(牡丹)て読むんやったな。」「こっちは，きはだ(黄蘗)や。」トイレの入口で聞いた会話です。本能まちづくり委員会様よりご寄贈いただきましたのれんは，次々にトイレの入口に掛けられています。染め抜かれた色名と由来は「のれん披露の会」での説明において，どの子もしっかりと聞き取っていました。子どもたちの学びの姿を垣間見る時間となりました。美しいのれんをいつまでも大切に使わせていただきます。本当にありがとうございました。(高倉小学校　　瀬川　葉子)

のれんが彩る 本ものに出会える日～おいでやす染のまち本能 ～

本年も3月20日(春分の日・伝統産業の日)に本能館を中心として「本ものに出会える日～おいでやす染のまち本能～」が開催されました。午前中は少し雨が残る肌寒い日となったにもかかわらず、特養入居者を含む総来場者約 800 名と大変賑々しい一日となりました。

昨年「日本イベント大賞制作賞」を受賞した「のれんの華スタンプラリー」。今回も油小路通沿いのお家に様々な古代色ののれんが掛けられました。朝一番小雨の中、リピーターの小学生が「よっしゃ、一番のりめざせ！」と台紙を片手に駆け巡っていました。実際にラリーにチャレンジしてみましたが、「目と手と頭そして身体」を使ってのけっこうな全身運動になりますね。のれんの前で台紙をにらみ漢字で書かれた古代色の名前を必死で探し「ここぞ」と思う欄へスタンプを押します。美しく押せず･･･。せっかくの台紙を記念に、と焦るほどヘロヘロにしてしまいました。40 色ののれんを探しては確認してかがんで押して･･･と体力チェックにもなるラリーで、完成した時は、まるで大文字登山をしたような清々しい達成感がありました。また次回までに一色でも多くの色の名前の由来を覚えようという自分への宿題もできました。公道でのイベントであるため車両・歩行者双方の安全確保が重要ですが、お揃いの黄色のジャンバーを着た学生スタッフが注意を喚起するプレートを手に要所要所に立ち声掛け、対応してもらえたおかげで車も歩行者もスムーズに通行できたように思います。この「のれんの華スタンプラリー」には 220 名も参加されました。油小路を歩く多数の方々にも楽しんでいただけたことと思います。



「公開工房ツアー」は 27 組 218 名の参加でした。上木友禅・鹿島紋章・金彩荒木・中東盛染工・土山印染・村田縫紋・高岡創作作家の各工房より 3 軒ほどのコースを組み、見学させていただきました。ツアーは約半数近くが市外からの参加者で、遠く長崎県やカナダの方もおられました。毎回、職人さんの丁寧な仕事と詳しい説明に皆さん感嘆の息を漏らされます。続く「実演コーナー」は特養 1 階に設けられ、片岡刺繍・福本糊置・岡田京野菜細工・多田裃仕立ての各氏が細かい作業の実演をされ、机の前から離れない方も多くおられました。「裃着てみるか～？」と声をかけられて、はにかむ子どももいました。また同じ特養 1 階に「池坊本能クラブ」のみなさんの生け花が飾られました。いずれも力作ぞろいで、会場はより華やかになりました。寒い外のから一転、春爛漫の実演コーナーでした。これらのツアーは「作り手の顔がみえる」よい機会であると思います。

自治会館和室での「マイキモノプロデュース」の来場・相談者は約 30 名でした。今回は、「自分の着物を作りたいのですが･･･」という男性の相談も多く、マイキモノプロデュースは性別をこえて人気となっています。「こうやってゆっくり相談にのっていただけるので安心して初めの一歩が踏み出せます」等のお声を聞くと、マイキモノの趣旨が最大限に発揮できていることを感じ、大変励みになります。

「染の体験工房」では園・坪内・西村染工各氏による絞り染めの帯揚げ・風呂敷制作が開催されました。21 名の参加者はめいめいが生地を選び、「生地にも柄があるなんてー」とおっしゃったり、図案を決めるのにも色を決めるのにも「迷うわー」の声が上がったり。チクチクと縫って絞るのは大変根気の要ることですが、皆さん、黙々と制作。お昼過ぎには染めに出されました。待つこと数時間、染め上がった作品の糸を解いて、自分の絞った作品が現れると大変満足そうでした。

「お茶席コーナー」では今回も八坂婦人会による甘酒の接待。寒い日でしたのでツアーの最後にお手間入りの甘酒をいただくとほっと一息、身体が温まります。とても嬉しいもてなしでした。寒い中、程よい加減の甘酒を供していただくため婦人会の皆様には大変ご苦労をおかけいたしました。

参加者の皆様、ご協力いただいた各工房、各団体、そしてボランティアの皆様、「本能学区」を軸に多くの人々の力でのおかげで、本年も無事「本ものに出会える日」を開催することができ、ありがとうございました。(あ)

本能社会福祉俳句サークルの皆さんの作品です。

つながれし枝 京友禅の 弥生かな　岡山栄子
まちなかを ぶらり歩きし 染のれん　佐野勝子
本能の 染の町吹く 春の風　斎藤越子
春雨の スタンプラリー 染のまち　真田千鶴子
さわやかに のれんが招く おいでやす　油小路明子
染のまち のれんくぐれば 枝の春　大澤福子
春風に 包まれている 染のまち　穐山都子

ひとりごと ◎この春も、綺麗なのれんの華が咲きました。イベントのためのイベントではなく生活に溶け込んでいることが人気と継続の秘訣なのでしょう(あ)
◎京都の春の訪れは「伝統産業の日」と桜の開花。「本もの」を見るのは日本人の習性ですね。(ゆ)
◎まちづくり委員会定例会の次回開催日は5月1日午後7時～、本能自治会館会議室にて。当日飛び入り歓迎です。本年度もよろしくお願い致します。(N村)